

令和7年度 第2回 双葉小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年6月19日（木）14時30分から16時30分
- 2 開催場所 双葉小学校 会議室
- 3 出席委員 河邊 忠一、平岡 廣二、加藤 泰弘、伊東 敏郎、水野 久美子、
大羽 恵子、蓑 悦子、木村 理、大嶋 雅也、服部 知里
- 4 欠席委員 なし
- 5 学校支援コーディネーター 岡野 真知
- 6 学 校 中村 憲司（校長）、滝川 宏美（教頭）
馬淵 康枝（CSディレクター）
- 7 教育委員会 加藤 大輔（教育総務課）
- 8 傍 聴 者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 馬淵 康枝

10 議長の選出

司会の教頭から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、加藤委員を推挙する旨の発言があり、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- （1）双葉小がめざす授業
- （2）キッズチャレンジビジネスで育てたい力

12 会議記録

司会の教頭から、委員総数10人全員の出席があり、会議が成立している旨の報告があった。

（1）双葉小がめざす授業

ア、校長説明

議長の指示により、校長から、ブログに掲載している日頃の子供たちの様子や、本日の参観会の授業の様子の写真の紹介があった。

集中している姿、気付きの姿、夢中になっている姿が見られる、「わくわくが持続する授業づくり」を具現化していくという話があった。

また、めざす授業づくりについての説明と、10月に行われる保健の研究授業についての説明があった。

イ、意見交換

議長の指示により、委員の方々の意見交換が行われた。

- ・10月の研究授業に向けて、全校で校内研修をやっていくのか？（河邊委員）

→公開する授業は4年生で、他校の職員も参観する。一斉授業から抜け出して、自分の学びのスタイルを作る授業をめざして、全校でやっていく。（校長）

- ・ピクトグラムは双葉小の取組みか？（加藤委員）

→双葉小の中で職員が共有している。(教頭)

→何で使うのか？多くてかえって分からないのではないか。(加藤委員)

・タブレット入力の方法はローマ字なのか？(平岡委員)

→1年生からカナ、音声、手書き入力など、様々な入力方法でスタートし、3年生の国語でローマ字を習うことを契機にして、タイピング練習の時間をとる。タブレットに触れ、タブレットを使うことが大事で、発達に応じて様々な方法での入力を認めている。

(教頭)

・目指す授業で、学習を自分事と捉えることは、なかなか難しいのではないかと？

(平岡委員)

→初めは、生活と結び付ける。たとえば、かけ算・わり算にしても、子供がわり算に結び付く体験をしてから学びにつなげる。教科書だけを使った一斉授業から抜け出さないといけない。(校長)

・「わくわくする授業づくり」は3年目になるが、進化は見られるか？(河邊委員)

→なぜ学ぶのかを教員も意識している。積み重ねが大事で、「新しい学びのスタイル」を基に、家庭学習も変えていかなければならないと考えている。(校長)

・3年前に、一人一人の子がやりたいことを実現させたい、ということから始まり、受け継がれている姿が見られた。授業の変更と同じく、教科書を使わない授業もあると、先生もやりたいことができるので応援したい。(大羽委員)

・参観会を見て、タブレットを使いこなしていた。廊下の展示も良かった。(蓑委員)

・参観会は保護者の出席率が高く、4年生は保護者と一緒の授業で楽しそうだった。

算数でも、保護者と一緒だったら楽しいのではないかと。(伊東委員)

・参観会の授業は、各学年とも丁寧にやっていた。一つのことを突きつめていて、子供たちがついていけている姿が見られた。夏休みの自主的な課題は、子供には難しいのではないかと。(大嶋委員)

・夏休みの自主的な課題は、懸念される。基礎学力を身に付けていけるか心配になる。

(服部委員)

・子供も保護者も、自主的というのは難しいので、選択肢があると良い。(水野委員)

・学校の夏休み課題の考え方が変わっていくと格差を生むのではないかと。(加藤委員)

→格差に合わせている。個に応じて変えていく。家庭学習も夏休みの課題も、同じ物を同じようにではなく、子供と保護者が考え、選択して、自己決定する。授業の理解も違う。できる子は自分でやっていく。できない子は教員と一緒にというように、学びを変えていく。(校長)

・教員も子供も、個別に向かっていく取り組みを積み重ねていくのは、どういう活動においてか？(河邊委員)

→いろいろな場面で自己決定していく。(校長)

・夏休みの課題は、低学年では自主的に考えるのは難しい。保護者が携わらないと無理。

(大嶋委員)

→夏休みの課題は、低学年は決められた課題に取り組むのも良いが、一律に同じことをするのはなく、教員もアドバイスしながら、その子に合った課題を提案する。(校長)

・学習進度で理解できている子とできていない子は、授業の中でどう配慮している？

(河邊委員)

→教員が把握して、教員がよく見る。(校長)

・3年生の授業で、できていない子をできている子が教えていて、良かった。(大嶋委員)

(2) キッズチャレンジビジネスで育てたい力

ア、教頭説明

議長の指示により、教頭からキッズチャレンジビジネスについての説明があった。今年度も挑戦していくのかを問うことからスタートして、頑張って挑戦することが決まった。1年生から小さなスタートをし、6年間の教育活動として、日々のいろいろな活動が6年生のキッズチャレンジビジネスに向かっているという話があった。

イ、意見交換

議長の指示により、委員の方々の意見交換が行われた。

・遠鉄百貨店との打ち合わせの内容を知りたいので、同席したい。(木村委員)

ウ、学校運営協議会として考える具体的な手立て

・運営協議会での熟議だけでなく、こんな支援ができそうとか、授業の感想をいただいたりして、応援してもらえると嬉しい。いろいろな人を巻き込んで広げていければ良い。(校長)

・ボランティアをたくさんの人に周知していきたい。(木村委員)

その他報告事項等

学校支援コーディネーターの岡野様から、ボランティア登録状況の報告と、図書ボランティアの活動報告があった。また、木村様から、1年生の生活科と3年生の社会科のボランティアの活動報告があった。

司会から、次回会議は、令和7年7月30日(水) 13時30分～16時00分に2階学習室ほかで開催する旨の報告があった。